令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

上尾市立太平中学校

目　次

上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」　・・・・・・・・ 1

1　学力調査結果の概要

（1）上尾市立小・中学校学力調査（令和８年１月実施）・・・・・・・・・・・ 2
【１～２年：国語、数学、英語】

（2）全国学力・学習状況調査（令和７年４月実施）・・・・・・・・・・・・・ 6
【３年：国語、数学】

（3）埼玉県学力・学習状況調査（令和７年４、５月実施）・・・・・・・・・・ 7
【１年：国語、数学】
【２～３年：国語、数学、英語】

2　学力向上を図る取組

（1）各教科の授業における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

（2）教育活動全体を通じた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
本校の特色ある取組
家庭教育との連携

上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

○社会に貢献できる人材の育成

学校課題研究主題

発達段階に応じた「知る」「深める」「内省する」９年間の道徳教育
～きまりの意義を理解し、自らを律することのできる児童生徒の育成を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R８全国学力・学習状況調査

国語、数学、理科ともに平均正答率は全国平均を下回る。
[国語] 自分の考えを根拠に基づいて書くことに課題がある。
[数学]すべての分野において平均を下回っている。特に、基礎的な知識の正しい理解や技能にに課題が見られる。
[英語]要点を捉えたり英文を書く力が特に低い。まずは、単語や文法等の基礎的な学力を身に付け、それらを活用する力を身に付けさせることが大切である。

R８埼玉県学力・学習状況調査

- 学力レベルが県平均を下回っている教科、学年が多い。
- 国語・数学・英語ともに基礎的な知識の定着に課題が見られる。
- 上位層と比べて中間層や下位層が伸び悩んでいる傾向がある。
- 非認知能力が前年度よりマイナスになっている項目がある。
- 数学については、全体的に学力が低く、特に基本的な計算に課題がある。

R7 上尾市立小・中学校学力調査

1、２年生において、国語、数学、英語の全教科において平均正答率が全国平均を下回る。評定別人数比を見ると、評定２以下の割合が中１、中２ともに11.4%高いことがわかる。

- 国語においては書くことの正答率が特に低い。
- 数学においては計算のみ全国正答率を上回っている。
- 英語においては１年生は書くことが課題だが、２年生は書くことが全国正答率を上回る。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ 読む、聞く、話す力の育成 ○ 計算力の育成 ○ 知識・技能に繋がる理解力	○ 課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ○ 自らの考えや思いを伝える力の育成	○ 粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ○ 自らの学習方法や態度がよりよいものになるように調整する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ ドリル学習の充実 漢字練習、計算練習、小テスト、まなびポケット等で自動採点ドリル学習を実施する。 ○ ICT 端末の活用 画像・動画等を用いて、視覚的にもわかりやすい授業を行う。	○ 課題設定の工夫 身近な話題や興味のある課題を設定し、思考力・判断力を高める授業を行う。 ○ 表現力を高める授業 論述やレポートの作成、発表、話合い活動、作品の制作や表現など多様な活動を取り入れる。	○ 興味関心を高める工夫 本時の課題や評価を明示することで授業への参加意識を高める。 ○ 振り返りの時間の設定 授業の終末に振り返りの時間を設定し、次の授業への意識付けを図る。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
○ 太平中レインボープランの実施 [挨拶] [高唱] [表明] [傾聴] [称揚] [整頓] [黙読] ○ レインボー・アワーの実施 ○ 朝読書時における読み聞かせの実施 ○ 太平中学校区における小中学校での連携した取組	○ 道徳通信の発行（毎月１回） ○ 学校だより、学年だよりの発行 ○ 保健だより、情報通信、進路指導通信、ホームページの活用 ○ 太平ノート、テスト計画表の活用 ○ 三者面談の実施 ○ 学校メール配信システムでの情報発信

1　学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和8年1月実施)

1年(令和8年度2年)【国語】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○思考・判断・表現は目標値を0．5ポイント上回っており、特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」が定着している。 ●我が国の言語文化に関する事項が目標値よりも16．9ポイント下回っており、歴史的仮名遣いに課題がある。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	授業で習った後に復習や確認を行わなかったために知識が薄れていったと考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・基礎的学力の向上を図る。特に我が国の言語文化に関する事項について、反復練習をさせるようにする。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書ける。	毎回の授業で行う漢字テストで書けない漢字について反復練習させる。
②	文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している。	古典の授業以外でも定期的に知識の確認を行う。

1年(令和8年度2年)【数学】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○基礎が目標値よりも1ポイント上回っており、基礎学力が一定程度身についていることがわかる。 ●活用が目標値に8ポイント届いておらず、課題がある。 ●思考・判断・表現の項目が目標値に2.6ポイント届いておらず、課題がある。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	▼	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	基礎的な計算演習や知識の定着に授業時間の多くを割いてしまい、活用や思考を伴う問題に取り組む時間が相対的に減少してしまった。
	主体的に学習に取り組む態度		
数学科の重点目標	・基礎、基本の内容を活用した問題に繰り返し取り組ませる。また、生徒用タブレットを活用し、家庭学習を習慣化させる。 ・知識を活用し、思考を深める活動場面を設ける。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	方程式を解く	文章問題の問題文をよく読み数量の関係を考える。	左辺と右辺を文字を使った式で表し、その式がどんな数量を表しているか考える。また、方程式を解く手順を確認する。
②	比例・反比例	比例・反比例の表、式、グラフの関係を理解することができる。	比例と反比例の式、表、グラフを比較するなど、それぞれの特徴や違いについて理解する。

評価について		
	△	目標値を上回る
	≒	目標値と同程度
	▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

1年（令和8年度2年）【英語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		≒	〇「語彙の知識・理解」は目標値を9.1ポイント上回っている。また、「様々な英文の読み取り」も目標値を4.7ポイント上回っている。 ●「基礎」は3.4ポイント、「活用」は0.2ポイント目標値を下回っている。特に「書くこと」は5.8ポイント目標値を下回っており、基礎学力の定着に課題が見られる。 ●問題の内容別正答率では「語形・語法の知識・理解」が11ポイント下回っている。「単語の並び替えによる英作文」は7.7ポイント、「場面に応じて書く英作文」は9.7ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	・「書くこと」について、基礎的な単語練習や問題演習にかける時間が少なかった。特に正確さを高めるための指導も足りない。
	主体的に学習に取り組む態度		
英語科の重点目標	・「語形・語法」の知識・理解などの基礎・基本を定着させるための単語小テストを実施する。 ・言語活動を通じて文章の構成や展開、自分の考えが伝わる書き方を高める。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	語彙・語形・語法の知識・理解	正しい語彙や語順で単語や文を書いている。	単語練習や単語小テストを帯活動とし、語彙力の定着を図る。
②	場面に応じて書く英作文	既習の表現を用いて場面に即した英文を書いている。	既習表現を想起させて書く活動を行うとともに、内容の適切さ及び正確さに係る指導を行う。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

1　学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和8年1月実施)

2年(令和8年度3年)【国語】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○基礎は目標値より1．1ポイント、知識・技能は目標値より4ポイント上回っており、基礎的な学力は定着している。 ●書くことが目標値よりも4．6ポイント下回っており、課題が顕著に見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	日々の学習の中で、決められた長さや内容について書いたり、自分の考えを明確にして書いたりする活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする力の育成。 ・文章の構成や展開、自分の考えが伝わる書き方の育成。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	目的や意図に応じて、伝えたいことを明確に書いている。	決められた条件に従って書く活動を繰り返し行わせる。
②	文章を書く	文章の構成や展開を工夫して書いている。	文章の構成と展開を意識して書く活動を繰り返し行わせる。

2年(令和8年度3年)【数学】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○基礎項目や知識・技能の項目が目標値よりも1ポイント程度上回っており、基礎学力の定着が見られた。 ●活用や思考・判断・表現の項目が目標値よりも8ポイント程度下回っており、基礎を活用する力に課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	▼	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	▼	繰り返し演習問題に取り組んだ結果、計算技能や知識等の定着が見られた。一方でそれらを活用する活動場面が相対的に少なくなってしまった。
	主体的に学習に取り組む態度		
数学科の重点目標	・基礎、基本の内容を活用した問題に繰り返し取り組ませる。また、生徒用タブレットを活用し、家庭学習を習慣化させる。 ・知識を活用し、思考を深める活動場面を設ける。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	連立方程式を解く	様々な係数の連立方程式を既知の事柄と関連付けて考え、解くことができる。	文字を消去する意味や方法についての考えを深めてから、それらを様々な係数の問題に活用して考えさせる。
②	図形の性質を基に新しい性質を証明する。	図形の性質の証明に、既知の性質を用いて証明することができる。	すでに証明された定理等を確認し、それらを用いて新しい図形の性質について考えさせる。

評価について		
	△	目標値を上回る
	≒	目標値と同程度
	▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

2年（令和8年度3年）【英語】

項目		評価	考察（○成果　●課題）
教科全体		≒	●「基礎」は2.6ポイント、「活用」は0.9ポイント目標値を下回っている。基礎学力の定着に課題が見られる。 ●校内正答率では、「語彙の知識・理解」が5.3ポイント、「場面に応じて書く英作文」が12．6ポイント、それぞれ目標値から下回っている。 ○校内正答率で「リスニング（内容理解）」が4.0ポイント目標値を上回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	・「書くこと」について、基礎的な単語練習や基本文のインプットにかける時間や指導が足りていない。 ・「読むこと」について、内容を正確に読み取る活動時間が足りていないことや明確な指示が出せていない。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・基礎、基本を定着させるための反復練習を徹底する。 ・目的を明確にした「読む」活動を繰り返し、読解力を高める。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	語彙の知識・理解	語彙力（単語力）を増やす。基礎・基本を徹底する。	単語練習を帯活動とし、語彙力の向上を図る。
②	場面に応じて書く英作文	既習の表現を用いて場面に即した英文を書いている。	場面に応じた英文で表現する（書く）活動を繰り返し行わせる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

（2）全国学力・学習状況調査（令和8年4月実施）

国語

考察（問題と結果の分析）

・「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」という観点の問題は、平均正答率を上回っている。
・問題形式の記述式・短答式の無回答率が全国平均よりも高い。
・問題形式の選択式・短答式正答率が県・全国平均よりも高い。

課題の要因分析

・読むことよりも書くことに苦手意識がある生徒が多いと考えられる。
・文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを根拠に基づいて書くことが課題である。
・言葉の意味や使い方、話し合いの仕方についての理解はできている。

数学

考察（問題と結果の分析）

・ 具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができている。
・ 2直線が平行になるための条件を理解できていない。
・ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができていない。
・ 統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができていない。
・ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができない。

課題の要因分析

問題場面における事柄やデータを数学的にとらえ、説明することに課題がある。
・ 正負の数において比較的正答を選んでいることから、正負の数の用い方を正しく理解できている。
・ 誤った回答を選択した生徒が比較的多いことから、平行線の条件を正しく理解できていない。
・ 誤った回答を選択した生徒が比較的多いことから、式の持つ意味を正しく理解できていない。
・ 事柄を数学的に用いる説明において無回答が最も多いことから説明することに課題がある。

英語

考察（問題と結果の分析）

・日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取る問題ができていない。
・日常的な話題について、話を聞き、概要をとらえることができていない。
・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニーションにおいて活用できる技能が身に付いていない。
・社会的な問題について短い文章を読み要点をとらえ考えとその理由を書く問題、及び、日常的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題の無回答率が高い。

課題の要因分析

・評価の観点別にみると、思考・判断・表現の観点で正答率が低いことが分かる。日常生活の話題について、必要な情報を聞き取ったり概要をとらえることに課題がある。
・語彙、表現、文法、など実際のコミュニケーションに必要な基礎学力が定着していない。
・無回答率が高いことからまとまった文章を読み、要点を捉える力や自分の考えや気持ちを英文で書く力が身に付いていない。

（3）埼玉県学力・学習状況調査（令和8年5月実施）
※主な参考資料　帳票09、40

国語

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
	校内	7−B			R7数値	3.4	3.4	3.3	3.8	3.6	3.3	3.8
	県	7−A			伸び +or−							

1年

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

・学習方略・非認知能力は県や市町村平均と比較してすべての項目で下回っている。
・学力レベルの伸びが4以上の生徒の8割が、柔軟的方略が4.3以上で、逆に学力レベルの伸びが4以下の生徒は3割に満たない。
・学力レベルは、県平均より1段階低い。
・「目的に合った文章の構成を選び、選んだ理由を2段構成で書く」という問題の無回答率が10.5%であり課題である。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

・目的に応じて文章の構成を考え、理由を挙げながら自分の考えを書くなど、書くことを授業で取り入れていく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
	校内	8−B	2	7−A	R8数値	3.6	3.6	3.4	3.9	3.5	3.4	2.9
	県	8−B	1	8−C	伸び +or−	−0.3	0.3	−0.3	0.5	−1.3	0.9	−1.1

2年

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

・学力レベルは昨年度から2段階上昇している。
・学習方略・非認知能力は市・県とほぼ同等のレベルである。
・体言・接続語・歴史的仮名遣いなどの知識の正答率が低い傾向がある。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

・昨年度からの伸びが見えるので、継続して学習の定着化を図る。
・文法や古典などに関する問題の正答率が低いため、言語事項の問題演習を重ねて課題解決を図る。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
	校内	8−B	1	8−C	R8数値	3.6	3.5	3.5	3.9	3.5	3.2	3.6
	県	8−A	2	8−C	伸び +or−	0.0	0.0	0.1	0.0	−0.1	0.0	−0.2

3年

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

・学力レベルは昨年度から1段階上昇している。
・学習方略と非認知能力については柔軟的方略と作業方略と認知的方略と向社会性が県平均の伸びより足りていないが、その他の項目は、県平均と同等か、伸びがみられる。
・主述が対応する表現になるように推敲する問題・体言をすべて選ぶ問題の回答は無回答率は0%であるが正答率が半分に到達しない。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

・「教科の領域」「評価の観点」「問題形式」の全ての分類・区分別集計結果の平均正答率が下回っている中で、「情報の扱い方、我が国の言語文化」が極めて正答率が低い。漢文の訓読文を書き下し文に直すなど、基礎が定着していないので、古典分野の基礎的内容を復習する機会を授業で設けていく。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)
※主な参考資料　帳票09、40

数学

1年

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
	校内	6−B			R8数値	3.9	3.8	3.7	4.1	3.8	3.5	4.1
	県	6−A			伸び +or−							

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

学習方略は県や市町村平均と比較してほぼ同程度の水準である
教科の4区分が全て県の正答率が3～4ほど下回っている。図形は県より5．6と大きく差が出ている。
問題形式の記述式は正答率が0．5上回っているが、短答式は4．0、選択式は3．4も下回っていて、選択式の問題数は22問ほどあるので全体的に計算を苦手としている。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

正答率から基礎的な計算の解き方や知識・技能の定着が不十分と考えられる。小学校での既習事項を確認しながら進めるとともに、基礎的な知識が定着していくようにスモールステップで進めていく。また、短答式や選択式の正答率から文章を読み取る力や式を見て計算方法を見極める力を重点的に身に付けていく必要がある。

2年

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
	校内	7−C	3	6−C	R8数値	3.6	3.6	3.4	3.9	3.5	3.4	2.9
	県	7−B	2	6−A	伸び +or−	0.1	0.1	0.0	0.1	−0.1	0.1	−0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルの伸びについては、全体的に県平均を下回る結果となった。とくに関数の分野や9.4と大きく下回っている
・学習方略については、努力調整方略とやりぬく力が−0.1ポイント、柔軟的方略とプランニング方略と認知的方略が0.1ポイント伸びているが、大きな変化はみられていないが、ほとんどの項目で県平均以上の伸び率が見られている。
・問題形式は全体的に下回っているが、特に記述式は13．1と大きく下回っている。短答式も選択式も約5．0近く県平均より低く、記述も計算も苦手である。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

全県の結果と比べてほとんどの領域、観点、問題形式において下回っている。その中でも特に低いのが、教科の領域では「関数」であり、すべての基本となる数に関する知識や計算技能に課題がある。評価の観点においても知識・技能、思考・判断・表現どちらも県平均から約6ポイント近く下回っていることから基礎的な知識や技能が定着できるようにしていく必要がある。

3年

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
	校内	7−A	1	7−B	R8数値	3.6	3.5	3.6	3.9	3.5	3.2	3.6
	県	7−A	0	7−A	伸び +or−	0.0	0.1	0.1	0.0	−0.1	0.0	−0.2

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルの伸びについては、昨年度から大きく変動はなかった。
・学習方略については、向社会性は0.2減少してはいるものの、県の平均と比べて同等か、それより高い傾向が見られる。
・教科領域では、すべての領域で県平均を下回っているが、特にデータの活用について−5．1ポイントとなっており、領域の中でも特に身についていない。
・評価の観点に関しても「思考・判断・表現」が4．2ポイント下がっており、基礎的な計算はもちろん、論理的に考える力も弱い。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

学力が大きく後退しているわけではないが、基礎的な計算力が身についていない。。特に思考・判断・表現が大きく下回っていることから、基礎的な力にはもちろん、その基礎を発展させ思考させる力を身に着けさせる必要がある。小テストや単元テストを実施し、確実に基礎学力を身に付けさせると共に、その基礎学力を応用させる力を高めていく。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)
※主な参考資料　帳票09、40

英語

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
2年	校内	8−A			R7数値	3.6	3.6	3.4	3.9	3.5	3.4	2.9
	県	9−C			伸び +or−	0.1	0.1	0.0	0.1	−0.1	0.1	−0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは県平均を1つ下回っている。
・学習方略と非認知能力については、概ねの項目で県とほぼ同等のレベルか0.1の伸びがある。努力調整方略と自制心については、−0.1下回っている。
・話すこと[発表、やり取り]において、県と市の平均を共に上回っている。また、思考・判断・表現において、県の平均を1．7っている。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること、会話が成り立つように、空所に当てはまる適切な語句を書くこと、夏休みに経験したことを、まとまりのある文章の英文で書くこと等が県と市の平均を上回っており、成果となっている。一方で、まとまった英文の要点を理解する問題や、文法事項や言語の働きなどを理解して、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、英文を完成させる問題に課題が見られた。
単語小テストや文法の並べ替え問題に継続的に取り組み、基本的な知識・技能を習得させる。また、言語活動等に取り組む中で、難しい問題や、解決策を振り返りで考えさせ、ヒントや仲間から学んだりするなどして、粘り強く取り組む姿勢を育む。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
3年	校内	9−B	3	8−B	R8数値	3.6	3.5	3.5	3.9	3.5	3.2	3.6
	県	9−A	2	9−C	伸び +or−	0.0	0.0	0.1	0.0	−0.1	0.0	−0.2

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは3段階伸びている。
・学習方略と非認知能力については努力調整方略と向社会性の伸びが県平均より伸びが足りないが、その他の項目は、県平均と同等か、伸びがみられる。
・「動画から必要な情報を読み取りそれをもとに自分の考えを書く」と、「会話の流れを把握して問われていることを理解して自分の考えを表現できる」の問題において無回答率が高く正答率も県平均に大きく及ばない。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

学力レベルの伸びは3段階と県の伸びを超えているが、まだまだ学力は県平均に及ばない。話すこと(発表、やり取り)と書くことの正答率が低く、問題形式では記述式問題を苦手とする生徒が多いことが数字から読み取れる。まとまった英文をインプットし、それらを用いて自己を表現できる力を養う学習を繰り返し行うことが必要である。

2　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
① 読む、聞く、話す力の育成 ② 計算力の育成 ③ 知識・技能に繋がる理解力	④ 課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ⑤ 自らの考えや思いを伝える力の育成	⑥ 粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ⑦ 自らの学習方法や態度がよりよいものになるように調整する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④、⑤	① スピーチや少人数での話合い活動の実施。 ④ 集団で課題に取り組み、解決する活動の実施。 ⑤ 課題作文練習の実施。	
社会	①、④、⑥	① 少人数での話合い活動を積極的に取り入れる。 ④ 現代の課題に関連させて考える。 ⑥ 定期的にワークやAIドリルに取り組ませ、できるようになるまで問題演習を行う。	
数学	②、④、⑤、⑦	②⑤小テストや再テスト、教え合い活動を活用して確実に定着するまで取り組ませ、見守る。 ④⑦授業やテストの取り組みについての振り返りを充実し、自らの学習について調整する機会を設定する。	
理科	③、④	③ AI型教材の利用等、ドリルによる反復学習を習慣化する。 ④ 仮説→結果→考察→まとめの過程から科学的な思考力をもとにしたレポートの書き方の定着を図る。	
外国語	③、④、⑤、⑦	③単語練習や単語小テストを帯活動で実施する。 ④⑤既習表現を想起させて書く活動を行うとともに、内容の適切さ及び正確さに係る指導を行う。 ⑦ICT端末の活用や振り返りを実施して、自分の知識・技能を広げたり課題を見つけたりする。	
音楽	④、⑤	④⑤ 考えや思いを言語化するためのヒントを提示し、周囲やグループワークでの意見交換の場を取り入れる。	
美術	③、④	③制作中に技能に関するアドバイスを個々に行い、個のイメージを広げる中で主体的に制作できる技能を身につけさせる。 ⑤思いの伝わる制作活動をすることで、自己肯定感を持てるようにする。作品展示を通して、自己肯定感を後押しする。	
技術	③	③ 自主学習に使えるコンテンツを作成する。そして、そのコンテンツを題材ごとに使用する時間を確保する。	
家庭	④、⑥	④ 生活の中から問題を見出し、習得した知識・技能を活用したり、仲間と対話したりしながら課題解決する場面を設定する。 ⑥ 学習や製作の過程を段階的に記録し、見通しをもって目標に向かえるようにする。	
保健体育	④、⑥	④ 思考ツールやICT機器を活用して、運動のポイントや課題を言語化し、仲間と協働的に課題解決を図る場を設定する。 ⑥ 主体的に取り組む姿を具体的に生徒に提示し、その実現を目指させる。	
特別の教科　道徳	①、⑤	① 少人数での話合い活動を積極的に取り入れる。 ⑤ 意見が言えない生徒に対してICT端末で視覚的補助を行う。	

A･･･取組の効果が十分に見られた　B･･･今後も課題として取り組む　C･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○ 太平中レインボープランの実施	○［挨拶］［高唱］［表明］［傾聴］［称揚］［整頓］［黙読］
○ 「レインボーアワー」の実施	○ 定期テスト前の部活動中止期間中に、自分の課題を持ち寄り、学習する場を提供する。分からない問題がある場合は、生徒からの質問に答えて学習補充を行う。
○ 朝読書における読み聞かせの実施	○ 各学期に１回、朝読書の時間を利用して、学校運営協議会員、保護者による読み聞かせを実施する。
○ 太平中学校区における小中学校での連携した取組	○ ９年間を見据えた規律ある態度の育成に向けて、年４回の小中学校での取組を共有する会議の実施や年１回の相互授業参観を実施する。 ○ 道徳ノートの活用
家庭教育との連携	
○ 道徳通信の発行	○ 月に１度、道徳通信を発行する。各教員より道徳に関する話題や実体験等を踏まえた内容とし、発行日の朝読書の時間に活用する。
○ 学校だより、学年だよりの発行	○ 学校での生徒の活動の様子や、今後の予定を知らせる。
○ 保健だより、情報通信、進路指導通信、ホームページの活用	○ 定期的に家庭への啓発を図る。 ○ ホームページや学校メール配信システム等を更新することで、情報発信を積極的に行う。
○ 太平ノート・テスト計画表の利用	○ 太平ノートを利用し、家庭学習時間を記入する。定期テスト前にはテスト計画表をつくり、毎日の学習の進度状況を担任と家庭とで共有する。
○ 三者面談の実施	○ 全校三者面談を年２回実施する。
○ 学校メール配信システム	○ 学校からの文書や各部活動からの連絡等は学校メール配信システムで発信することにより確実に情報が家庭に届くようにする。